

学校において定める 目 標		<p>(1) 自己の在り方生き方を考えながら、現代社会の問題を自己の問題としてとらえ、課題を発見し、「問い」を立て、よりよく課題を解決していくための資質・能力を育成する。</p> <p>(2) 協働的な活動を通じて、多面的な他者理解と自己の相対化を図り、「対話」の態度を育成する。</p> <p>(3) 自己の思いや考えを、相手にわかりやすく発信する力を育てる</p>
内 容	探 究 課 題	「まとめる」力・「伝える」力の育成
	育成を目指す 具体的な 資質・能力	<p>(1) 探究に必要なリテラシーや課題の発見や解決に必要な知識及び技能、探究の意義や価値の理解</p> <p>(2) 自分の興味関心に応じて課題を立て、情報収集やその整理、分析を通して、自分の結論を導く力及びそれらをまとめ・表現する力</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組む態度、多面的な他者理解と自己の相対化を通じた「対話」の態度</p>
付与する単位数		1 単位
授業時数の配当方法		基本的に1単位を週ごとに割り振り実施する。 (但し、平和学習に関して、特定の期間・日時に集中的に行う場合もある。)
学習活動		<p>(1) 課題研究「まとめる」力の育成 (2年次までの探究活動の報告論文を英語で作成する)</p> <p>(2) 課題研究「伝える」力の育成 (作成した論文をもとに相手に論旨を伝える)</p> <p>(3) 平和学習 (本校と広島の被爆について学び、人に伝えられるようになる)</p>
教材の使用等		自作教材
指導方法・指導体制		<p>(1) イノベーションデザイン部において、年間指導計画および指導案を策定する。</p> <p>(2) 学年会において、年間指導計画及び指導案を検討し実施する。</p>
評価規準・評価方法		<p>論文・ループリックシート・その他ワークシートにより、以下の規準で評価を行う。</p> <p>(1) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度が身に付いている。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己とのかかわりから問いを見出し、自分で課題を立てて、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</p> <p>(3) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な技能を身に付ける。</p> <p>(4) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識を身に付け、課題にかかわる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できる。</p>

単元	月	探究の過程	学習内容・学習活動	時数	学習形態(場所)	各教科・特別活動等との関連・指導上の留意点等
読書体験の充実と平和学習	4月	まとめ・表現	<input type="checkbox"/> 2年次の取り組み内容を研究論文としてまとめる <input type="checkbox"/> 世界を知り、考える ・平和について考える	14	HR 単位(教室)	<ul style="list-style-type: none"> 適切なフォーマットに基づいて、英語で自分の探究の取り組みをまとめることができるようにする まとめたものを他に説明することができるようにする
	5月					
	6月					
	7月					
	8月					
世界を知り考える	9月	課題の設定	<input type="checkbox"/> 卒業後、探究したい問いを1つ立てる	10	HR 単位(教室)	<ul style="list-style-type: none"> 他との協働の中で、生徒一人一人が新たな「問い」を手に入れるように指導する
	10月	情報の収集1	<input type="checkbox"/> 自分の関連分野の論文を選ぶ			<ul style="list-style-type: none"> 自分の関連分野の情報を、機械翻訳を用いながら英語で収集するように指導する
	11月	情報の収集2	<input type="checkbox"/> 選んだ論文を読んでいく			<ul style="list-style-type: none"> 選んだ論文を適切に読み、情報を手に入れるように指導する
	12月					<ul style="list-style-type: none"> その結果、新しい「価値観」や「見方・考え方」を自分の関連分野に関して手に入れるように指導する

